

平成31年度（令和元年）自己評価書・学校関係評価書

令和2年3月9日

真庭市立久世こども園

園長 田中 順子 印

1. 久世こども園の教育保育目標

- 健康で明るい子ども
- 友達と仲よく遊ぶ子ども
- 自分のことは自分でする子ども
- 豊かな心情をもち考える子ども
- 自分の考えを発表できる子ども

2. 本年度の重点目標（課題）

- 心も体も健康でたくましく、生き生きと活動する幼児をめざして
～自らが「遊びたい」と思える環境づくり～
遊びたい→遊びこむ（こども園での活動）⇒学びたい→学びこむ（就学後の活動）
- 家庭との連携を深めながら生活習慣の定着を図り、心身ともに健康で安全に生活しようとする態度を育てる。
 - 人と関わることを大切にして、思いやりの気持ちや言葉で伝えあう気持ちを育てる。
 - 心や体を動かして遊べる環境の工夫に努め、自分で考え、粘り強く取り組む力を育てる。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価	評 価 委 員 評 価 (学校評議員評価)
教育課程・指導計画	教育目標やその計画の作成はしているが全職員確認し、共通認識することは不十分であった。	3	3
行事	経験させたい行事について取り組んだ。見せるための行事にならないように園児の発達に沿い必要な行事である確認をしていく必要がある。	3	4
組織・運営	職員の体調不良があり、分担割り当てに無理があった。保育をしながらの報告、共通認識、研修時間の確保には工夫が必要である。	3	3.5
学級経営	園児の良いところを見つけ、丁寧な保育に心がけるが、時間に追われ環境設定教材研究が不十分だった。	3	3.5
特別支援教育	一人一人の園児が成長している。日々の関わりでは工夫や援助の再考が必要である。	3	3
安全管理・保健指導	屋根の改修があるが、安全にまたその環境を生かした取り組みができた。	3	3
研修（資質向上）	新採研があり外部講師を招いての研修に全職員が参加でき保育の見直しができた。	3	4
情報提供・保護者・地域との連携	ホワイトボードを活用した。また、保護者の意見から写真を定期的に無理のない範囲でボードの下に掲示するようにした。	3	3.5
小学校との接続・連携	散歩や健診など小学校を訪れる回数を多く持つように心がけている。お互い忙しい中、無理のない交流を進めたい。	3	3.5
子育て支援	保護者が安心して話ができる関係が築けてきている。各機関との連携も随所にとることができた。	3	4
食育の推進（給食）	給食を楽しみに待ち、おいしく食べている。食事の量も増えてきた。5歳児は小学校と同じ給食を食べていることで、就学に向けて安心している。	3	4
食事の提供（調理）	遷喬学校給食共同調理場ともう少し連携を取り合える関係を築いていく必要がある。	3	3

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価	評 価 委 員 評 価 (学校評議員)
生活習慣の定着に向けて	久世地区の5回のチャレンジに家族で取り組む姿が見られ、意識付けができています。園生活でも丁寧に取り組んだ。	3	3.5
家庭での生活について	あいさつ、早寝早起き朝ごはんの励行など気を付けようとする保護者は増えている。		

5. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

信頼される園づくり

- 園児は喜んで登園し担任との信頼関係を築くことができている。
保護者の要望に対して職員でできることを取り組み、早い対応が評価できる。
- 職員数が少ない中、一人一人の園児の内面理解に努めるが、保育の環境構成や教材研究、保育の記録などにかかる時間を作る工夫が今後より必要になってくる。
- 新採用研修で園外の指導者から指導を受ける機会があり、職員の資質向上につながった。

生活リズムと健やかな体作り

- チャレンジタイムやニコニコタイム等様々な経験ができるように取り組んだ。
年長児は、苦手なことにも挑戦する気持ちから自信をもち、友達と教えあう姿が見られ成長を感じている。
- 久世地区で共通の期間取り組むチャレンジも定着している。マンネリ化しないように工夫していく必要もある。

安全な環境づくり

- 屋根の改修が行われたが、事故なく無事に終了した。PTAと協力し、園庭が狭くなったり、水遊びが十分にできないことを逆手にとって、瓦に親子で絵を描いたり、勝山の水夢に行ったりと楽しい経験につなげることができた。
- 3歳児の給食については、安全で安心な給食提供につながるように、食物アレルギー児への対応と同様、考えていく必要がある。

6. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- 園だよりやボードへの記入、写真掲示などで園内の様子がわかりやすいように心がけ、保護者の安心につながるようにする。
- 家庭では経験できない活動や、幼児期ならではの遊びを十分に楽しむことが就学以降の学びにつながるので、こども園での遊びの充実をこれからも職員で話し合いながら進めていきたい。
- 午睡の時間を有効に使い職務分担の効率化を図りながら、共通認識を大切にしていける。
- 今年度職員の体調不良や休職があり、職務分担に無理があった。適切な職員配置の中で、職員が喜んで働ける環境づくりに努める必要がある。
- 職員不足を早急に改善していく必要を感じる。
- アンケートではよい評価を得ているが、アンケートの回収率が73%と低いので、提出できていない保護者の意見が気になる。
- 研究テーマについて、園児の実態に合わせたものを5月連休明けには決定し、共通理解のもと取り組むようにする。
- 小学校との接続では、園から積極的に働きかけ児童との無理のない交流や職員同士つながりを持つことができるように努力していく。

学校評議員・園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である